

《3》市民主体のまちづくりを支える仕組みと仕事

◎行政職員に求められる心得とは

この稿は、局・区が市民を主体とした地域のまちづくりの仕事にどのように取り組んでいるのかそのポイントは何かを紹介したものである。

ここでは、それらを元に、エッセンスを抽出してみる。

①「知恵袋」って知っている？

横暴を承知で、協働の主な流れを整理すると図のようになる。ここでは、そのなかでも「パートナーシップ推進マニュアル作成」に着目したい。これは、平成8～10年度に、全区役所で行われた「パートナーシップ推進モデル事業」を事例に、ポイントとなる点を整理し紹介したものだ。「パートナーシップの知恵袋」と題する冊子で、作成時期は、少し古いが、中身は健在。現在も貴重なバイブルになっている。

区役所の倉庫を探してもな

い場合は、編集部へご一報を。

②2匹のハリネズミ

「住民と行政の関係は、寒い日に温めあえない2匹のハリネズミ」という話を聞いたことはないか。お互いを理解しようとせず、傷つくことを恐れて寒くてもジット1匹で耐えている喩え話だ。

ハリネズミのように、住民との付き合いを怖がっていないか。最初は、じつくり住民の声を聞くだけでも、雰囲気は変わる。一歩進んで、何とか対応しようと頑張れば、信頼関係ができ、もうハリネズミではなくなる。

でも、これからは市役所全体でハリネズミをなくすよう努力すべき。そのためには、何よりも「プロセス」を大事にすること。瀬谷区で行った事前ワークショップ・地区デビュー教科書作成が、一つの

方向性となりそうだ。

③まちづくりは森羅万象

この言葉は、頭に入れておきたい。地域課題を、一つの課で全て解決することは困難である。その時に重要なのは、役所内部にとどまらず、あの人に聞けばよい。もしくは、誰かを紹介してくれるかもしれない」という人間関係をもっていること。

また、行政の縦割りを地域に持ち込んではいけない。局区内部への情報共有もしっかりと行おう。情報は伝えた分だけ、相手から返ってくるという説もあるのだ、どんどん流せば有益な情報が返ってくるはず。これも「広報よこはま」とは違う情報提供手法だ。

④総合的コーディネート力

今後は、相手に応じて、人、もの、金、情報などの支援を

使い分けていくことができる行政の「総合的コーディネート力」が重要になってくる。そのような職員の増殖とその機能発揮のための「仕組み」を作っていく必要がある。

⑤局と区の関係

市民まちづくりを支援する最前線は区役所。だから地域福祉保健計画では区計画を中心とし、全市計画を区の支援的計画と位置づけた。では、局がすべきことは？「協働は大事なこと」と言い続けること。従来の「上意下達」「一律的管理」からの脱却がミソ。

⑥協働の風土づくり

「協働」が一時的な流行のような形だけ

のものになっていないか？これらの実践を積み上げ検証していくことでパートナーシップを定着させることが次のステップ！
また、区の悩みは多いので、局はいつでも相談に応じられるような関係でいてほしい。

図 パートナーシップ型行政の流れ

